■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

お早うございます。
藤林イザヤです。

【今日の聖書箇所】です！

テサロニケの信徒への手紙一 4.1-12

【今日の御言葉】です！

「7 神は私たちを
汚れた生き方へではなく、
聖なる生き方へと
招かれました！！」
（テサロニケの信徒への手紙一 4.7：協会共同訳）

※以下の引用は、全て協会共同訳です。

ライフチェンジング！
メッセージです。

『聖なる生き方！』

↓　　↓　　↓

https://youtu.be/XcWY_gwGTP8

今朝も、
テサロニケの信徒への手紙一から、
恵みを頂きましょう。

3 章までは、
パウロは、
繰り返して、
感謝を捧げてきました。

それは、
テモテを通して、
テサロニケの信徒たちが、
信仰に堅く立って、

前進していることを、
知ったからでした。

とはいえ、
テサロニケの教会も、
決して、
順風満帆では
ありませんでした。

様々な苦難が
来ていました。

戦いもありました。

でも、
その中で、

パウロたちが教えた
新しい人として生きる世界を、
しっかりと見倣って！！
習慣として確立していたのです。

キリストにある
新しい命が、
躍動する習慣でした。

なので、
逞しく成長していることが、
浮き彫りになったのです。

これは、
パウロにとっては、
望外の喜びでした。

先日、
3 男の大学での
成績表が送られてきました。

最近は、
親のところに、
そういう成績表が
送付されるのですね。

拝見しましたら、
もう、
専門基礎科目になりますと
名称が
チンプンカンプン……

微積分学……

まあ、
微分積分のことでしょうね……

でも、
その次の
線形数学……
となると、
？？？です。

さらには、
常微分方程式……

まあ、
お疲れ様……
としか、
言えませんなぁ……

専門は、
電子工学……
と聞いていました。

細かくは、

「電子工学の電気電子系学類、
電子物理工学課程」

だそうです。

はあ、
サッパリ分かりません。

先日、
3男が帰郷した時に、

少し話を聞きました。

物理でも、
計算をして
実際に試す。

すると、
必ず誤差が生じる。

それはどうして起こったのか、
ということを、
検証していく。

それが、
論文になるのだ……

というような
お話しでした。

ま、
難しいこと、
頑張ってるんやなぁ、
ということで、
終わってしまいました。

でも、
心なしか、
嬉しかったのも
事実です。

既に、
21 歳にして、
私の遠く及ばない世界に、

踏み込んでいるのですから。

頼もしく思いました。

テサロニケの信徒たちは、
パウロにしたら、
自分の子のような存在でした。

それが、
自分がいた時よりも、
遥かに逞しくなり、
成長して、
前進しているということは、
これこそ、
望外の喜びだったのでした。

なので、
1–3 章は、
感謝に溢れたメッセージだった、
ということができます。

……

さて、
4 章になって、
改めて語り出します。

さて、
と書き出しています。

これは、

「そこで、
最後に！！」

というニュアンスを持った
書き出しですね。

ということは、
4 章からは、
テサロニケの信徒への手紙一の
第 2 部が始まった、
ということになります。

1 節では、
今歩んでいることを、
そのまま継続して、
前進することを勧めます。

どのように歩むべきか、
という姿勢を、
パウロたちから、
見倣った通りに、
ということですね。

ヘブライ書でも、
こう記されています。

「7 あなたがたに
神の言葉を語った
指導者たちのことを
思い出しなさい。

彼らの生き様の
結末をよく見て、
その信仰に倣いなさい」
（ヘブライ書 13.7）

生き様を見る、
ということは、
キリストにある
新しい生き方を、
見倣っていく、
模倣していく、
真似する、
ということですね。

ある面、
新しい命を得た者が、
見倣うことができますね。

そのことを、
テサロニケの信徒たちは、
実践していたのでした。

2-3 節で、
その目指すべき方向性を
提示しています。

主イエスにあって、
命じたのは、
聖なる者となること！！
でした。

特に、
性的な面での清潔を
戒めています。

淫らな行い、
という表現は、

原語では、

「ポルネイア」

と言います。

今のポルノの
始まりの言葉ですね。

現代においても、
これは際限なく広がって
いますね。

このことは、
要注意です。

余りにも、
不倫もありふれたものに、
成り下がっているからです。

芸能人や政治家などは、
性的スキャンダルで、
こき下ろされています。

でも、
現実の社会では、
幾らでも起こっています。

このことで、
家庭が壊れて、
子ども達も、
被害に遭うことは、
枚挙に暇がありません。

インターネットの発達で、
ポルノ動画は、
幾らでも視聴できるように
なっています。

かつて、
ポルノマンガを、
ドキドキしながら、
古びた倉庫で
読んだことがありましたが、
今思えば、
まだしも、
のどかな世界でした。

でも、
今は、

おぞましいほどの量が、
発信されています。

フリーセックスを
突き進んできた結果です。

ここに、
L や G、
また B も加わっています。

しかし、
よくもまあ、
これ程までに、
性を売り物にする人が
おびただしくいるものだ……
と嘆息することもあります。

昔から、
性欲との戦いは、
私自身の現実にありました。

なので、
その深刻さというものが、
今まで以上に、
厳しいものになっていることを
感じずにはいられません。

先日も、
性病の１つ、
梅毒の患者が、
全国で１万人を超えた、
とありました。

フリーセックスの
成れの果ての１つです。

でも、
こうしたポルノの現実は、
古今東西、
変わらないものなのです。

なので、
繰り返して、
パウロは警鐘を鳴らしていきます。

コリント書では、
露骨に語っているのは、
こうした性の取り扱いを
軽視していけない、
もっと、

命の始まりとして、
大切にしなければならない、
という危機感の表れです。

また、
結婚を尊ぶことも、
つながっているからです。

……

4節で、
結婚に触れていくのは、
当然の帰結です。

不倫をすることは、
夫婦関係を破壊します。

なので、
尊敬の念をもって、
妻と生活する、
というのは、
結婚を尊び、
夫婦の交わりを、
大切にしなさい
ということですね。

男性にとって、
妻は、
単に子作りの道具では
ありません。

人生を共にして、
愛し合う恵みを味わい、

楽しみつつ、
全うする関係です。

命の始まりとしての性を
まずは大事にしましょう。

さらに、
結婚を尊び、
夫婦の交わりを
かけがえのない恵みとして
受け止めて生きることです。

先日も、
伴侶を天に送られた方と
お話ししました。

長年連れ添い、
50 年を超えておられました。

その年月、
互いに尊敬しながら、
大切にして過ごされました。

なので、
先だたれた中での喪失感は、
深かったですね。

同時に思いました。

これ程の
喪失感を抱く関係は、
尊いものだったなぁと。

改めて、
このご夫妻を
尊敬したのです。

まさに、
御言葉の通りに、
生き抜いた方でした。

……

ですから、
5 節、
情欲に溺れては
ならない、
のです。

神を知らない異邦人、
という表現は、
ユダヤ人が
よく用いたものでした。

自分たちは、
神を知っている、
という意味が含意されていますね。

でも、
ここでは、
福音を知らないで、
自分の力だけで生きている
すべての人々！！
のことでしょう。

今風に言い換えると、
まだ、
キリストの福音を知らずに、
自力で頑張って生きている
全ての方々、
ということです。

その中で、
神様の語り掛けも、
また、
性的な倫理についても、
聞いたことがないので、

「情欲に溺れる」

ことも起こるのです。

ある面、
これが幾ら世間の
常識であっても、
関係ありません。

神の子・キリスト者の常識は、
毅然として、
情欲の溢れた現実とは
一線を引くのです。

……

そういう中で、
6–7 節では、
教会の神の子・キリスト者たちと
聖い交わりを持つように、
勧めています。

神様の招きを受けて、
救われて、
神の子・キリスト者と
なりました。

その存在が、
こうした世間の常識に、
翻弄されてはなりません。

世間並みの生き方は、
虚しい限りです。

世間と同じように生きるために、
神様の招集に与ったのでは
ないからです。

欲望のままに生きて、
苦しみが増していく生き方は、
古い生き方でした。

神の子・キリスト者として、
新しい命を得て、
それを脱ぎ捨てました。

なので、
こうした生き方とは、
既に決別しているからです。

……

8節に入り、
パウロは、
少し厳しい論調で、
警鐘を鳴らします。

このような警告は、
神様から来ているから
でした。

この警鐘を拒むことは、
内に住んでおられる、
聖霊の導きを無視することに
なってしまうでしょう。

それは取りも直さず、
聖霊を与えて下さった、
神様を拒否することに

なるのです。

こうして、
性的な事柄について、
パウロが厳しく語ったのは、
やはり、
テサロニケの教会に、
そういった問題があった、
ということです。

これは、
いつの時代にあっても、
現実の教会が
直面することなのです。

今年の 7 月 24 日に、
性教育セミナーを

実施しました。

都来チャーチの牧師夫人で、
産婆さん、
今は、
助産師ですが、
日ごろから、
出産に立ち会い、
赤ちゃんを取り上げておられる
山下百子師に、
お越し頂いて、
実施したのです。

やはり、
先に触れたように、
余りにも、
性的なことが、
情報として氾濫しているので、

しっかりとした、
見識を持って戴くために、
実施しました。

↓　　↓　　↓

https://youtu.be/G9-E8qMtFiU

実際に、
胎児がどのような動きで
生まれてくるのか、
というところまで、
丁寧に
実際に模型を使って、
教えて下さいました。

感動しました。

ともあれ、
そこで強調されたのは、
性というのは、
快楽を与えるものだけれど、
単なる快楽の道具ではない、
ということです。

命を産み出す、
大切な営みだ、
ということが、
丁寧に語られました。

聞いていた中高生も、
涙しながら、
その尊さを味わったのです。

こうしたことも、
聖霊の導きを感じる中で、
実施しているのです。

……

9 節からは、
兄弟愛について、
語っています。

これについては、
書く必要が無い、
というので、
ある面、
テサロニケの教会においては、
文句の付けようのない、
高い水準で、

愛し合い、
助け合い、
励まし合っていた、
ということでしょう。

しかも、
10 節では、
その愛は、
マケドニア州全土の諸教会に
向けても、
十分になされていたのです。

先に、
マケドニア州、
アカイア州の模範となった、
とありましたね。

つまり、
具体的な助けの手を伸ばす、
ということでは、
各方面に果たしていた、
のでした。

なので、
なお一層、
励んでください、
と語っています。

……

もう１つ
付言しているのは、
やはり、
日常的な生き方でした。

それぞれが、
落ち着いた生活をし、
自分の仕事に励み、
自分の手で働くように、
勧めています。

自立した生活は、
大切ですね。

今、
近藤義和兄が、
『おおきにクリーンサービス』
という事業をなさっています。

大事なことは、

障碍者であっても、
自立して生きる、
という道筋を付けることですね。

その一助を果たして
おられることは、
とっても素敵だと思います。

加瀬宣雄師が、
来夏を目指して、
グループホームを
立ち上げようと
なさっています。

これも、
障碍者の方にとっては、
自立することの

大切な基盤となります。

『おおきに』で、
就業できて、
自分の手で働いて生きる、
という自立を
果たして行きます。

この自立は、
経済的な面で、
全てを親がかりにならない、
ということですね。

もう１つが、
親との同居からの自立です。

いつか、
必ず、
親が亡くなる日を
迎えます。

その時になって、
どうしよう……
と慌てないために、
グループホームを準備し、
生活の居住面を、
自立へと導くのです。

これが、
自立した、
落ち着いた生活を
支えることになるからです。

テサロニケの教会でも、
依存しながら生きている
という方々がいたのでしょう。

でも、
できるだけ、
仕事をしながら、
自分のことは自分でする、
ということは、
教会の共同体でも、
励ましていくべき方向でした。

そうすれば、
外部の人、
つまり、
教会共同体以外の人にも、
品位を保つことが
できますね。

つまり、
人としての尊厳を、
しっかりと確立できます。

また、
厄介をかけずに、
自分で生きていくのですから、
迷惑になりませんね。

今、
こうした取り組みが、
現実になされている、
また、
これからなされていく、
ということは、
本当に感謝です。

さらに、
うつ病とかで
仕事ができない方も、
数多くおられます。

仕事ができずに、
生活保護で、
過ごしている方も、
約 160 万世帯、
約 200 万人おられます。

でも、
元気になって
働けるようになると、
素晴らしいですね。

そう言った方が、
ヴィジョンを描き、
将来展望をもって、
元気に歩み出せるように、
励ましていくことも、
教会の大切な働きです。

こうした教会共同体は、
社会においても、
良い影響を与えて行くことが
できるのです。

こうしたことも、
テサロニケの教会に対して、
勧めていたことが、
ベースになっているのです。

……

今朝、
この箇所から、
汚れた生き方ではなく、
聖なる生き方をしよう、
ということを、
しっかり受け止めましょう。

汚れた生き方には、
情欲に溺れた生き方がある、
ということを、
パウロは手厳しく語りました。

このことは、
現代の日本においても、

同じです。

性的な事柄において、
軽々しく、
快楽の道具にしては
なりません。

寧ろ、
大切にして、
命の始まりであることを、
しっかりと見すえましょう。

ゆめゆめ、
性的興奮だけを求めて、
セックスしてはならない、
のです。

セックスの喜びを、
深く味わうために、
心から愛し合う関係を
築きましょう。

そして、
結婚をして、
夫婦の営みの中で、
思う存分、
エンジョイするのです。

さらに、
その中で、
新しい命が託されます。

この命も、

楽しみながら、
共に育てていくのです。

互いを尊敬する、
というのは、
この営みでこそ、
大いに発揮されていくべき、
大切な姿勢でもあるのです。

なので、
世間で、
同棲から始まって、
結婚に至るというのは、
間違いです。

そんなことをしなくても、
互いの愛を育むことは

必ずできます。

寧ろ、
体の関係から入るので、
心が着いてこなくなる……
ということの方が、
多いのです。

既に、
実践済みの結果です。

なので、
神様は、
最初から、
大切な方向性を
示しておられるのです。

大事にして
歩んで行きましょう。

さらに、
落ち着いた生活をして、
自分の手で働くことです。

これも、
大事ですね。

これも、
聖なる生活です。

経済的に
自立して生きることは、

神様に与えられた人生を、
満喫して行く方向です。

このことも、
丁寧につかみ取りましょう。

その中で、
神様の特別な祝福が、
開かれていくからです。

また、
そういった方向へと、
1 人でも大勢の方が、
踏み出せるように、
励まし合っていきましょう。

先週も、
『おおきに』で
お仕事をなさっている方が、
嬉しそうにおっしゃいました。

「このiPhone14は、
自分で働いたお金で
買いました！！」

その輝いた笑顔に、
心がとっても温かくなりました。

幸いですね。

この幸いを、
数多く、

生み出したいと、
思いました。

互いに励まし合いながら、
前進しましょう。

****

祈ります。

天のお父様。

あなたの語り掛けを
感謝します。

今日も、
新しい日を下さり、

ありがとうございます。

世間には、
性的にも、
情欲に溺れた生き方があります。

でも、
神の子・キリスト者として、
聖なる生き方を貫きます。

導いてください。

主イエス・キリスト様の
お名前によって祈ります。

アーメン！！！

では、
今日も素敵な一日に

なりますように！！

God is good! All the time!

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

今日は、
この辺で失礼いたします。

最後までお読み頂きまして、
ありがとうございます。

また、メイルいたします！

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

【中央チャペリタン】
（*Chuochapelitan*）
～*Gospel for the Millions*～
発行者：藤林イザヤ
発行者住所：〒604-0845
　京都市中京区二条殿町 540
ＴＥＬ：080-4295-0991
E-mail：daijoufu@gmail.com

＜京都中央チャペル　感謝献金サイト＞
⇒ http://blog.livedoor.jp/daijoufuda-doglovers/archives/12807278.html

京都中央チャペル　ゆうちょ口座

⇒振替口座　01090−3−52922

もしくは、

ゆうちょ銀行　当座　109 支店

番号：0052922

名前：京都中央チャペル

※当座、ですので、

お間違いのないように

お願いします。

……

藤林からのメイルを

受け取りたくない場合には、

コチラ

⇒ https://canyon-ex.jp/fx19152/lCELSc

から受取拒否の設定を

してください。

※一旦、解除してしまうと、

今後のコンテンツが
受け取れなくなりますので
十分ご注意ください。

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●